

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	化粧品化学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年 分析専攻		学期及び曜時間	前期	教室名	4校舎6階基礎医学実習室
担 当 教 員	和田光弘	実務経験とその関連資格	化粧品メーカーにおいて開発部長、主席研究員などとして勤務。 主に化粧品新製品開発研究に携わる。			
《授業科目における学習内容》						
化粧品について、化粧品分析ゼミ(1年次)で学んだ基本をもとに、より深くより幅広く知り実践により理解習得する。 企業における新製品開発研究を、原料・処方を知り実際に実験することにより体感し理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート70点+出席点20点+平常点(積極的参加度)10点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
パワーポイントなどの使用、または必要に応じてオリジナルプリント配布。						
《授業外における学習方法》						
全成分表示(商品の外装などに記載)に興味を持ち、自身の使用化粧品はもちろん買い物時などにも観る習慣を持つ。 指示のあった授業のレポートを作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
実験については正確さが重要であり、個人およびグループの創意工夫も大切である。 実験においては誤った操作をすると事故につながる恐れもあるため、教員の指示に従い慎重に行動し白衣、実験用靴を着用する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布 アンケート実施		
		各コマにおける 授業予定	保湿剤の概説および原料成分の実感			
第2回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける 授業予定	化粧水について基本の保湿感の処方作成			
第3回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける 授業予定	化粧水、美容液について基本の保湿感の処方作成			
第4回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける 授業予定	化粧水、美容液について基本の保湿感の処方作成			
第5回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	化粧水、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける 授業予定	化粧水、美容液について、コンセプトで求められる保湿感の処方作成			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品、美容液の保湿について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	レポート作成提出
		各コマにおける授業予定	化粧品、美容液について、コンセプトで求められる保湿感の処方作成		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	原料成分単体の特徴の理解および実験		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	原料成分単体の特徴の理解および実験		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	高分子の違いによる製品の特徴①		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	高分子の違いによる製品の特徴②		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	高分子の違いによる製品の特徴③		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	高分子の違いによる製品の特徴④		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	処方への応用		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品において様々な特徴を発現することができる高分子成分の特徴、応用、処方化による製品の特徴などを理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	レポート作成提出
		各コマにおける授業予定	処方への応用		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	基本処方の作成		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	化粧品化学実習		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	4校舎6階基礎医学実習室
担 当 教 員	和田光弘	実務経験とその関連資格	化粧品メーカーにおいて開発部長、主席研究員などとして勤務。 主に化粧品新製品開発研究に携わる。			
《授業科目における学習内容》						
化粧品について、化粧品分析ゼミ(1年次)で学んだ基本をもとに、より深くより幅広く知り実践により理解習得する。 企業における新製品開発研究を、原料・処方を知り実際に実験することにより体感し理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート70点+出席点20点+平常点(積極的参加度)10点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
パワーポイントなどの使用、または必要に応じてオリジナルプリント配布。						
《授業外における学習方法》						
全成分表示(商品の外装などに記載)に興味を持ち、自身の使用化粧品はもちろん買い物時などにも観る習慣を持つ。 指示のあった授業のレポートを作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
実験については正確さが重要であり、個人およびグループの創意工夫も大切である。 実験においては誤った操作をすると事故につながる恐れもあるため、教員の指示に従い慎重に行動し白衣、実験用靴を着用する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	演習形式	授業を通じての到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける授業予定	調色実験			
第17回	演習形式	授業を通じての到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける授業予定	調色実験			
第18回	演習形式	授業を通じての到達目標	ファンデーションの処方、特に調色について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	レポート作成提出	
		各コマにおける授業予定	調色実験			
第19回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける授業予定	基本処方①			
第20回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布		
		各コマにおける授業予定	基本処方②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	検討①肌なじみ		
第22回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	検討①肌なじみ		
第23回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	検討②伸び		
第24回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳化物(クリーム)のテクスチャーの違いと処方との関係を理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	レポート作成提出
		各コマにおける授業予定	検討②伸び		
第25回	演習形式	授業を通じての到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	無添加化粧品の実態・内容説明		
第26回	演習形式	授業を通じての到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	無添加の化粧品の作成①		
第27回	演習形式	授業を通じての到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	無添加の化粧品の作成②		
第28回	演習形式	授業を通じての到達目標	無添加化粧品について理解することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	レポート作成提出
		各コマにおける授業予定	無添加の化粧品の作成③		
第29回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品の新製品を実際に企画開発することで、企業開発部門における新製品開発業務の流れを体感することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	
		各コマにおける授業予定	化粧品新製品の企画開発(ゼミの集大成として)		
第30回	演習形式	授業を通じての到達目標	化粧品の新製品を実際に企画開発することで、企業開発部門における新製品開発業務の流れを体感することができる。	パワーポイントなどの使用 または必要に応じてオリジナルプリント配布	発表
		各コマにおける授業予定	化粧品新製品の企画開発(ゼミの集大成として)		